ぼくのねこ ポー

やさしい気もち

2年　A・Oさん

ぼくと同じ小学生の谷山くんは、とてもやさしい男の子だと思いました。

そのりゆうは、三つあります。

一つ目のりゆうは、みちをあるいていたねこを、かわいそうに思ったので、ポーという名前をつけて、いえでおせわをしてあげたことです。

二つ目のりゆうは、お母さんにポーを見つけた時のじょうきょうについて、うそをついてしまったことを、ずっとわすれずに、あやまろうと思っていたことです。

お話の中では、お母さんにあやまったばめんはなかったけれど、お話のつづきで、きっと谷山くんは、お母さんにあやまったとぼくは、思います。

また正じきにあやまろうとしたことも、かんたんにできることではないので、すごいとかんじました。

三つ目のりゆうは、てん校生の森くんの気もちとねこの気もちを考えて行どうできたことです。

谷山くんは、ねこの話がきっかけで、森くんにつめたいたいどをとるようになってしまいました。

でも、谷山くんはそういうたいどをとることで、「じぶんが、すごくいやな人間になった気がして」つらい気もちだったとぼくは思います。

ただ谷山くんは、せっかくかぞくになったポーとはなればなれになりたくないだけだったとかんじました。

だからこそ、お話の中で谷山くんは、二かいも「ポーは、ぼくのポーだよね」とポーに聞いていたのではないかと思います。このセリフから谷山くんのつらい気もちがつたわってきました。それでもさい後には、じ分のつらい気もちよりも、森くんやねこの気もちを大切にしようとけっ心して行どうしました。あいての気もちを大じにした谷山くんは、すごい男の子だと思いました。

このあと谷山くんと森くんは、なかよくなっていったと思います。

それでねこのトムとも会いたい時会えるようになってたのしくすごしたと思いました。

じぶんのことばかりを考えないであいての気もちも考えて行どうすることが大じだと、この本をとおして学びました。